

関修委現地研修会同行記 修学旅行に転換期

琵琶湖、京都、吉野をめぐる

佐々木公彦

十二月一日から三日間、関修委の主催で琵琶湖・大和吉野地区を主目的とした修学旅行現地研修会が開催された。今回の研修会は一日夜の研修会と七集約された次の二点に尽きる。

①新幹線のメリットを最大限に生かし、七十二時間という限界内



彦根城見学 (群馬県新治中・梅沢章氏うつす)

にできるだけの密度の高い多様なコース採用の可能性の探索。②新宿泊地の開拓と宿泊形態の研究。以下、少し補説する。新幹線利用により、引率疲労度は大きく減少したが、京都発着の時刻を考えると「わかか屋」利用に比し見学時間は逆になくなくなっている。

この点を認識し、同時にバス経路に往復路を含むような男女を排除し、できるだけ周回路を取る見学地やコースの選定を図らなければならぬ。これは多くの学校が従来採用してきた京都・泊泊という宿泊形態を再検討すべき時期がきたといえる。事実、関西方面、すなわち京都・奈良を目的に修学旅行を組む学校が年々ふえているが、それに対応する宿泊施設の拡充を京都に期待するのは困難であり、それはそのまま京都泊に際し、生徒一人あたり多数の泊に際し、サービス面の低下、非常事態など緊急事態の安全性に関する危険となって表われている。

加えて、入組の強化なども京都泊の優位性が年々失われているのである。今までの学校に組み込まれていた新築夜の散策も、初期の頃は地方と京都との差が、物質面や店舗の規模などから見れば、それはそれで同級生ならば、コースとはいえない。いつかは修学旅行計画

から完全に雪中を進んで、米原着十三時三十分。すぐバスで彦根に向かう。十五分ほどで城に着く。大手門から屈曲する道を登り天守閣あたりに来れば左和山を望み、琵琶湖に臨む三層の櫓塔に接する。城は軍政民政を司った。約三十分で宿舎着。荒涼の湖面は比良の暮雲を仰ぎ、たいへん印象的な眺めだ。

往時を追憶することができた。堂のつららむる後徳勝殿の粗末さに哀れを感ずる。吉水神社の帝王の貴族に輝きつつも書院造りが現代和風建築に大きな影響を与えていることを充分に感得できた。

静の悲哀、村と文字の誠意など歴史に名高い修学旅行場跡をあとに、バスで彦根市に向かう。行程三十分。おなじみ沢市お里の伝説にちなみ、盲人旅者が付随している。句の植物園や音の遊園地など生徒にも興味のある施設が数多くあった。吉野町観光課桐井雅行氏のすばらしい解説は往時をしのびさせるに充分だ。これがなくては今回の現地研修の効果は半減したであろう。

大和八木へバスが向かったのは十二時二十五分。すべ近鉄特急で京都へ。「ひかり」の発車が二時四十四分だから、たいへん忙しいスケジュールであった。

最後にまとめる。目的の①はからむことが、吉野地区は宿舎の規模・施設内容、旅程のうえで中学校の計画に相入れない。むしろ大津の宿泊は、先般見学した琵琶湖同様、利用コースの検討は充分考慮に値する。今後の研究と実践に期待したい。最後に日程全般について細かい配慮をいたさず、終始、行を共にした関修委事務局の先生に厚く感謝して筆をおく。(浦和市中階中学校)

近江路散歩

⑤

テラテラ小説に登場する近江路は戦国を舞台にしたものが多く、このNHKの「国盗り物語」にも登場する。湖北路の旅は古戦場の多いものである。新幹線の米原まで、佐和山麓、城や香場の蓮華寺の北条仲時らの古戦場をしのびながら伊吹山のふもとを東へ行く。團ヶ井の宿、日本武尊の居る泉がある。團ヶ井宿も日光地だが近江長岡から柏原へ、近江江原氏佐々木氏の一派、京都家歴代の墓がここに並ぶ。歴代が、地方豪族の墓、十八代も一カ所にあるのは珍しい。墓石がすべて重石印があるのも美しい。柏原には重石印の墓石が、有名な伊吹登山の

「朝妻宿」を描き、柳沢吉保夫の人情を諷刺したというので話題をよんで朝妻宿跡の底のりいば福地がある。

長浜は秀吉が今浜を改めて長浜城を築いて築造した湖北第一の賑わいの都市で、長浜祭りが有名である。市内繁華街に城址がある。弘法大師の市の方をめぐらせて争いを止めたことにかかわらず、朝妻

とむすんで抵抗し、これがもとで小谷城が落ちた。やがて、本能寺の変で信長が殺される。お市の方は柴田勝家の妻になる。勝家と秀吉は対戦することになり、賤ヶ岳合戦がおこると古戦場の碑のあたりからみた

一面朝妻が井上靖や水上勉の小説で有名になった。選りすぐりて古代文化を伝える鶴足寺。大吉寺・菅山寺・石道寺なども注目される。賤ヶ岳のほとり余呉湖が近江路

土記に羽衣伝説を伝え、水上勉が琴糸の里を紹介した「湖の舞」の舞台のあたりで、衣掛柳のある湖畔に万年杭のある風物がおもしろい。さらに湖北には奥琵琶湖下ライプワーや栃木峠をこえて北国への道などあり、じつに史

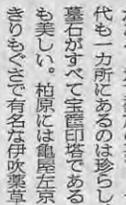
愛嬌がある。これを巧みに表現したのが郷土玩具の木曾駒(写真右)で、別名を源氏駒ともいう。木曾郡南木曾町が特産地である。(資料・中央研修部)

愛嬌がある。これを巧みに表現したのが郷土玩具の木曾駒(写真右)で、別名を源氏駒ともいう。木曾郡南木曾町が特産地である。(資料・中央研修部)

愛嬌がある。これを巧みに表現したのが郷土玩具の木曾駒(写真右)で、別名を源氏駒ともいう。木曾郡南木曾町が特産地である。(資料・中央研修部)

湖北路は戦国の史跡

渡辺守順



蔵されている。さらに街道を北陸へ向って進むと、道の木かげにのびのびと道標があり、三島池のほとりには、雪の美しさを伊吹山が湖面にうつりあたりたマカサの遊ぶ姿をみる。

山東町朝日の観音寺は秀吉に三腕の才でめどられた石田三成が幼い日を過ごしたところであり、近くの史跡は古代豪

名園を残した小堀遠州や石田三成の出生地、鉄砲発明の祖といわれる徳川家康の出生地、一貫斎の遺跡などもあるが、湖川の野村橋に近く道のほとりの姉

勝家とお市の方は自害した。こうした湖北の戦乱の世に救いの役目を果たした古寺があらうに光を放っている。

国宝の華厳をもつ神照寺、木之本地蔵尊の浄信寺、国宝の十

源院、京都家歴代の墓)

源院、京都家歴代の墓)

源院、京都家歴代の墓)

源院、京都家歴代の墓)



龍興寺で解説をきく(茨城県見川中校長・介川容介氏うつす)

源院、京都家歴代の墓)

源院、京都家歴代の墓)

源院、京都家歴代の墓)

源院、京都家歴代の墓)

豪華フェリーで思い出の修学旅行に!

●船舶概要 旅客 594人
設備 冷暖房完備、レストラン、ラウンジ、ゲームコーナー、売店、浴室、公衆電話、VTR等
48年3月より就航
瀬戸内航路14時間
黒潮航路20時間

新門司 大阪南港 名古屋 四日市

就航中

名門カーフェリー

本社 京都市中京区新町通四条上ル ☎075(221)7747-8

名古屋事務所 ☎052(931)0481-3 四日市事務所 ☎393(52)5071-5315366 新門司事務所 ☎098(481)1780-7 小倉営業所 ☎93(55)10782-0793 東京事務所 ☎3(212)15463-4747 川崎営業所 ☎44(36)3716